

近世ヨーロッパの文化と東アジア研究会

東アジアへの西欧 の知の伝播の研究

2021年度第2回公開研究会

【日時】

2021年12月4日(土)
13:30~16:00

【開催方法と申し込み】

Zoomによるオンライン開催

参加希望の方は2021年12月1日までに右のQRコードか以下のURLよりお申し込みください。前日までに接続先をメールでお知らせします。

<https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/join/register/tZwpduCvrT4tGNVDwdwayks10uGoJwLh65je>



【プログラム】

13:30-13:40 開会挨拶・趣旨説明：
野原慎司（東京大学准教授）

13:40-14:40 報告1：高哲男（九州大学名誉教授）
「アダム・スミスの音楽論——『道徳感情論』と
「模倣芸術論」を中心に——」

14:40-14:55 休憩

14:55-15:55 報告2：野原慎司（東京大学准教授）
「ホウガース風刺画から見るアダム・スミスの時代」

※各報告には質疑応答の時間を含みます

15:55-16:00 閉会挨拶：石原俊時（東京大学教授）



120th 2020-2023
知の継承

東京大学経済学図書館創設120年
アダム・スミス文庫寄贈100年
東京大学経済学部資料室創設110年

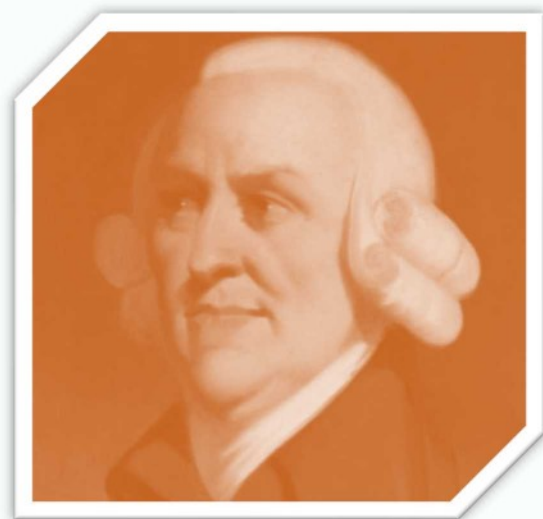
東アジア藝文書院

近世ヨーロッパでは、経済学の創始者として有名なアダム・スミスをはじめ、近代の学問を形作る人物が出現した。明治維新以降、日本が近代化する際、それら西欧の知が基礎となった。西欧の知・学問の受容により、日本は、西欧に肩を並べる国になろうとしたのである。

なかでもアダム・スミスは、西欧の経済成長の秘訣を明らかにしてくれるものとして着目された。その着目が基盤となり、新渡戸稲造は、東京大学所蔵のスミス旧蔵書を購入した。

その後も、東京大学教授・総長であった大河内一男は、西欧の文化を象徴的に表すウィリアム・ホウガースの版画を購入し、コレクションとした。本研究会では西欧の知の受容に迫るものである。

【この研究会はどなたでも参加できます】



【主催】

- ・東京大学東アジア藝文書院（EAA）
- ・東京大学経済学図書館・経済学部資料室